

## サロン便り 令和3年度 第5号 頭の体操コーナー解答

### ① オランダ紅(おらんだこう) *Camellia japonica* Orandakô

千重咲き 中輪 4月 江戸中期からの古典品種 ヤブツバキ系 紅地に白の筋入り。花卉は中折れしてとがり、内側ほど小形になり、規則正しく重なる珍種。江戸中期の『本草花蒔絵』(1739年)に図と説明がある(色分け花図鑑 椿 350種/学習研究社刊 桐野秋豊著 より)



### ② 紀州司(きしゅうつかさ) *Camellia japonica* Kishu-tsukasa

千重咲き 大輪 4~5月 兵庫産 ヤブツバキ系 濃桃~桃紅地に星~雲状斑や横空斑が入る。かつては厚物好きの海外でも人気があった。宝塚市の植木屋で古くから栽培されていたというが、来歴は不詳。(色分け花図鑑 より)



### ③ 酒中花(しゅちゅうか) *Camellia japonica* Shuchuka

牡丹咲き 中輪 3~4月 江戸期からの古典品種 ヤブツバキ系 白地に紅覆輪、ときに小絞りも入る。江戸の延宝年間(1673~81年)より酒席の座興として、ヤマブキやタラノキの芯で花鳥をつくり、彩色、圧縮したものを酒盃に浮かばせる遊びがあった。この細工物を酒中花といったが、名は縁が紅色の本種をそれに見立てたものか。「椿伊呂波名寄色附」(1859年)に載る古い品種



### ④ 錦重(にしきがさね) *Camellia japonica* Nishiki-gasane

八重 中~大輪 3~4月 江戸期古典品種 ヤブツバキ系 「蝦夷錦」の枝変わりの「赤蝦夷」にウイルス性の白斑が入ったもの。明治初期の『椿伊呂波名寄色附』(1877年)に載る。(色分け花図鑑 より)

